
放課後は彼氏と寄り道しよう

優美香

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

放課後は彼氏と寄り道しよう

【Nコード】

N4659X

【作者名】

優美香

【あらすじ】

「ノクターンノベルズ」「小説家になろう」内で連載している【放課後、彼女にキスしよう】の作者の活動報告の転載、並びに、日々の雑感を綴って行きたいと思っています。

日本語を綺麗に使いたいと思う今日此の頃

書き言葉と話し言葉は違う。

書き言葉では、男女の性差やキャラの口癖も、興奮した時の口調や穏やかな時の口調も違う。

話し言葉でも、そうでしょうか？

教師や上司、親に対しての言葉遣いや、友人同士でのオシャレリの時。

全然、違うものだと思う。

又、私個人のことはありませんが。私の家族は非常に言葉遣いが汚い、乱暴な家族だった。

そんな家族が「優しさ」「礼儀」「節度」などと教えてくれる訳もなくwそりやもう大変。

だから、ある程度、自覚して直せるようになったのは、十代の後半くらいから。

非常に苦労しました。

そんな私は、やはり「言葉遣い」の綺麗な人に男女問わずに憧れる。

T・P・Oの使い分けが出来る人とかね。

そう思っているのが原因なのだろう、時々、自分よりも若い人の言葉遣いにビックリすることがある。

乱暴なだけなら、まだいい。

汚いのだ。

で、目上の人にも当然、それで話を進める。

それはちょっと引くなあ……。

やはり、日本人として生まれたからには、綺麗な日本語を使っていたいし、使えるようになりたいと切に思う。

綺麗な日本語の並べ方、選び方が出来る作家さんは無条件に尊敬してしまう。

「なるう」では展開が遅くてすみません、スピンオフの話

おはようございます。

今、家の前で破裂した水道管の工事をしてますorz

拙作「放課後、彼女にキスしよう」、コレ苦しいけど大好きな作品ですね。

手を掛ければ掛けるほど、それだけ良くなるというか。おそらくあまり目立たない作品ではありますが（笑）。

さて。この作品のスピンオフを、先日、18禁男性専用カテゴリにアップさせて頂きました。

タイトルは「彼女のおっぱいは僕のもの！」です。

元々、「放課後」は、それぞれのキャラの骨格を据えてから描きはじめた作品です。

実は成人してからの年表も作っているんです（ネタバレ）。

「放課後」本編/18禁男性専用カテゴリ連載……コレが進んで行くうちに、他の子も出してあげたい、早く出してあげなくちゃ、そう思っていた時に「参加募集、短編小説企画！」という文言が目に留まったんですね。

——いいもの、みつけた

最初はこう思って参加表明したのですが……（以下、略）。

……しかし近藤って、そんなにイイんだらうか？

あいつ兄弟多いし、家族の中でも長男だから、それなりにリーダ

ーシップみたいなのは有る。

由佳を前にすると、部活中とはまるきり違ってヘナヘナになっちゃう。

作者自身は柳楽が好きですね。

無愛想で、言葉が足りなくて。人付き合いが下手で。けど気持ち
は誰かに優しくなりたい、みたいな。

柳楽は、もうちょっと長く丁寧に書きたい。ちゃんとした恋愛の
連載にします。だから今、体が三つくらい欲しい。

今、近藤のストーリーを一生懸命、丁寧に作っているのは、キヤ
ラが共有する時系列の齟齬がないようにしていきたいから。

スピノフで書かせて頂いた鳥飼さんは、近藤とは違った「真面
目さ」と、近藤にはない「融通の利かなさ」はありますね。

んでもって、そのスピノフの中で、石井先生と女生徒との恋愛
もさり気なく匂わしていると言っね（笑）。

本日の「一度でいいんですっ」

私は今、18歳以上の年齢対象のところ「ノクターン」で、連載を続けています。

……余談になりますが、元々、人生で初めて仕上げた初作も「ノクター」に投下したせいもあり、そこで、タイトルの目新しさもあったのか、内容の設定が「議員と秘書」というものだった為か、割とすぐに「お気に入り」が固まって付いたんですね。

嬉しかったですよ！ そりゃあもう。二作目もそうでした。

さて話を戻して。

そこも「なろう」と同じように「異世界ファンタジー」が主流です。

そこに作品を投下し始めた今年の3月頃は、全然そんなのが分かっていなかった状態でした。

ちよつとずつ、周りを見る余裕が出て来てから「こんなに一杯あるの？」とビックリしたくらい。

正直言つて「なろう」の作品もあまりにも数が多くて、当時は全然まったく、眼を通す気分にはならなかったです。「放課後、彼女にキスしよう」の更新を48時間毎に設定していたせいもあります。

他の人の作品を見る余裕なんか無い無い。

何でも、2009年の9月に規定が変わって云々……というお話を、前からいらっしゃる方から最近伺ったのですが、「今、この状

態」なんだから仕方ない。この状態の中で勝負を掛けた訳ですから。「自分の文章は、どれだけ他人にアピール出来る能力があるんだろう?」というね。女性専用の18禁サイト「ムーンライトノベルズ」もありますけれども、敢えて私は男の人ばかりのところに向かった。その理由を書くのはまた後日ということに致します。

とにかく御蔭様で「ノクターン」の中では決して派手な存在ではないと思うけれども、その代わりに、地道に、愛読者の方々を拾い上げて来たという自負があります。

で、「異世界」「ハーレム」「チート展開」ですよ(笑)。

素直に告白すると、私は、これらの言葉は嫌ってましたし、安易に頼らずに「地に脚を付けた小説を描きたい」と思っていました。

でも、此の頃、そんな風に頭ごなしに嫌いだから読まないとか、嫌いだからチャレンジしない、とか、それも損かなーと思うように変わっていました。

5月6月頃は、傲岸不遜に思っていましたからね。

「こんなファンタジーなんか、有得ないものがウケてるなんて、有得ない。ハーレムなんて! は、ハーレム!! 非道德的なものか? 性描写だけならともかく? どこが私と違うのか分からない」

その秘密が知りたいと猛烈に思うようになりました。

そんな感情がキツカケになって、とりあえず名前が上方向に上がっている作品に眼を通して行きました。

打ちのめされちゃいました

異世界チーレムでも、面白いものは面白い。ハーレムであっても「どうせフィクションの世界なんだしーい」などと、思いながらキャラクターに共感したり、呆れたりできるものはできる。

「ちっ」

舌打ちしてたって体と脳味噌は正直なもので、空いた時間で自分の小説と全く毛色が違うものを読んだりしました。

完敗でした キャハ

……やはり、上位にある作品は、上位にいただけの理由はあるのです。あ、勿論、狭量な私の価値観で「中身サッパリこれ、だめじやん」つてのもあります（笑）。く、口が裂けても言わないんだからねっ（笑）。

それでもやはり「赤の他人様に「評価ポイントをつけさせ」「お気に入り登録させ」という、すごい手間ヒマ」を掛けさせる価値があつて然るべき作品が、上位には来ている。

それはなんだろう？

そう思って、また角度を変えて必死で、無い知恵を振り絞りながら、自分との差異を探して行っている過程の途中ではあります。現在在は。

けど、そうやっていたことは、結果的に凄く良かったと自信を持つて言えます。

次の欲が出てきたから。

私は、一作でいいから総合ポイント4桁を叩き出してみたいです。実情、大体、「お気に入り」が100件あれば、何人かは必ず、文章やストーリー評価をつけて下さる方はいらっしゃるので、総合で300ポイントを超えることが分かりました。

どんなにスマートな性格の人であっても、「自分の作品を上位ランキングに入りたい」欲は必ずあるはずです。生身の人間ですから、修羅の生命はあるのです。逆に、少し話は外れますが、生身の人間に修羅の命があるからこそ、文明は発達してきたのです。はい、言い切ります（笑）。

文章やストーリーを誰も評価してくださなくても、ついつかり「お気に入り」登録してくださった方が500人いれば4桁達成です（笑）。

極端な話、それでもいい。

一度、そこまでのラインに自分を押し上げてみたい。

何故、そこまでこだわるのかって？

そしたら、「ノクタという市場で、沢山の人を振り向かせるテクニク」が身に就くでしょう？

それは絶対に、今後の自分にも役に立つと思うから。
だからやってみよう。

今、真剣にそう思います。

他人様の作品にレビューを付けるのは難しい

他の方々の短編や連載を拝読していて「ん？」と思う時があります。

（もしも私が、この小説が紙ベースになって、本屋さんに並ぶ時の帯の文章を任されたら、なんて書くだろう？）

もくもくイメージだけが湧き上がります。自分勝手な妄想の一言に尽きますけど（笑）。読み手の立場になると、そういう遊び方もできるのがいいと思います。

作者の方から「レビューなんて書いてくれとか頼んでねえから消すぞこのヤロー」などと言われたら、確実に泣いちゃいますけど、幸い、レビュー初体験をさせていただいた方は、拙レビューを削除なさっていませんから、すごく嬉しいです。

前回にも書きましたが、今の自分は新しいことにチャレンジするために、少し手を伸ばせばできそうなことは、なんでもやってみたいと思っています。

たまたまですが、以前に「いつか自分に短編のレビューを書かせてください」と、こちらから申し出た方がいらっしゃいました。

オッケーが出ても、すぐには取り掛からなかったのです。かなり長く放置しておいて、遂に（笑）昨日の夜に、仕上げてアップした次第です。

今日の朝に見たら、誤字などが見つかったため、削除したり推敲

し直したりして、再アップ致しました。
だいぶコンパクトになりました（笑）。

だいたい、他人様の作品に「感想を書きたい！ここに、この作品が心に留まったヤツがいることを、作者さんに伝えたい！」と思っても、たかが感想一行書くのに、何時間も、つまらないことで悩んでしまう性質の人間です。

「こんな書き方したら、読んでくれる人が不愉快にならないだろうか？」とか。ほんつとに悩みます、やはりオープンになっている場所でもありますから。感想欄って。

レビューはそれよりも遥かにハードルが高いですね。

けど、たまに、感想を書くことじゃなくて「あたし、この作品の売りに関わってみたい。もしも関われるなら、どんな言葉を帯に書こうかな……。どんな言葉が対外的に「おっ？」と、モニタの向こう側の、人の目を留めてくれるんだろう」と、異様に執着が湧く作品があります。

昨日、こちらが勝手に書いたレビューは、自分的には、ものすごく気に入っています。

「くはあ！あたしって、やっぱり文章書くことしか取柄ないわ！とか思っちゃったくらい。ビシビシ決まりました。それを読んだ作者さんが、消すのも消さないのも自由だと思っています。こっちが勝手にやらかしたことなので（笑）。

ものすごく大変だったけど、「いいですよ」とレビューを書いてみたいと申し出た私に、お返事をくれた作家さんに感謝しています。

お勉強させてくださって、ありがとうございました。

酔って候

これマジでほんとの話なんだけどさ。

昔さあ

隣の市の、美男美女の夫婦が顔見知りになっていた訳よ。

確か酒屋さん経営してたと思うんだよ。

子供もお人形さんみたいな、ほんと可愛い女の子でさあ

「あー、この人たちっていいな。何の苦勞もしないで生きてるんだな」

そう思った訳。

なんであたしばかり苦しい目に あたしばかり あたしばかり

ものすんごく卑屈な時期でね

そんなとき、知ってる人に誘われて

ちっちゃい子供が音楽会やるから来てくれって

枯れ木も山の賑わいだからって

まあ日本語の使い方わかつちゃいねえと思ったし

そんな余裕ねえよとか思った訳 あたし。

それこそ「着て行く服がない」だよ。

でもしょうがないから行つたさ

そしたら、隣市お住まいの美男美女夫婦が来てんじゃん

なんで？隣の市なのに？って思つたよ

保育所の空きがないからこつちに来ていたみたいだね。

そんでわざわざ隣の市まで音楽会かよ アホかとバカかと。

日曜日なのに。

そしたらさあ

すごい物静かで知的なキレイ可愛い、美人奥さんの膝の上に

明らかに重度の脳性マヒの男の子が寝てんの。

まばたきする顔とか、もうほんとと脳性マヒの子供さんなの。

えっ って思つたよ

自営業で不安定かもわかんない家計かもしれないけど

賢くって美人の奥さんと 優しい男前の御主人と

えくぼが可愛い、お人形さんみたいな御嬢ちゃんと

絵に描いたようなホームドラマのテンプレート家族に

いきなり生まれてきた脳性マヒのお坊ちゃんだよ

その日は晴れていて、陽の光が、美人妻の全身を照らしていた。

あたしには後光が射しているのかと思った。

美人妻「おかあさん」は静かな笑顔で、ずっと子供のお遊戯と
か見ててさあ

もう、ほんと。静かな笑顔なの。

この夫婦はここまで来るのにどれくらいの悲しみを乗り越えたんだ
ろう。

これから先にどれくらいの覚悟を決めて行かないとならないんだろ
う。

そう思ったらさあ

あたし泣いてたよ、人の眼がいつぱいあんのにさあ。

ばかみたい。

恥ずかしかった。

けど思った。他人の見えない苦勞を察することができ自分になりたい。

見えない努力を感じられる人になりたい。

なんにもないよ、あたしの掌の中は。だけど

そう思ってしまった強烈な出来事は

驕っているときに姿かたちを変えて、静かな笑顔で、自分を叩く訳よ。

忘れちゃいませんか ってね。

命短し、恋せよ乙女

いやー、昔の人はイイこと言うねえ……。

しみじみ思う今日此の頃。こんにちは。優美香です。

今朝、鏡を見てビビっちゃいました。白髪発見です（汗笑）。もうそんな歳なのかと。いやいやまだまだ頑張れる。うんうん、なんつって独り言を繰り返しておりますです。

タイトルに致しました名言「命短し、恋せよ乙女」。コレって真実だと思っんです。若いからこそその純情のカタチがある。瑞々しい感性や、頑として折れない心、傷つきやすくてもどうしようもない青さとかですね、そこから自然に任せてほとばしる生命力がなければ、感応しあえないゆらぎみたいなもの。

誰に問われるまでもなく愛しい人の名を語る。

そんな一瞬は、とても貴重です。

今思うと、そんな感受性が人生を支えているような気も致します。

話は少しズレてしまいかも分かりませんが、昨日の夜、裏口の扉を開けて山の方の住宅街を眺めておりました。

色んな灯りが散らばっています。

私は小学校時代を青森県で過ごしたのですが、当時の修学旅行の行き先は、北海道の函館だったんですね。函館と言えば夜景です。

おぼこい小学生ですから、朝早く市場に行つて日本酒をちびちびやりながらウニやイクラで丼をたらふく食べたり、自由時間にラーメン食べ歩きとか無いんですけど（笑）。

函館山から見下ろす夜景は、まさに宝石をあちこちに撒き散らしたような美しさです。

子供心に、その光景は脳裏に焼きついて離れないものですね。

昨日の夜、小高い山の頂に向かって伸びる灯りの束は「思い出補正」がある函館の夜景に比べたら、確かにスケールはショボイ（笑）。

でも私は、いいな、と思つて眺める。その時間がとても好きです。

もう多分、二度と戻ることはない下北半島の地から見える海の色や、カラッとした風の冷たさや、寂れかけた町の夜景が何故か心に引つ掛かつてくる。そんな季節が、自分にとっては今頃です。

どんな方にとつても、どんな街の夜景でも、心を癒すものなのではないでしょうか。

街の灯り。一軒一軒、迫って行ったら、その下では色んな景色があると思います。

家族や恋人と。ひとりで。様々な過ごし方もあると思います。激しい憎しみもあるだろうし、諦めや絶望もあるかもしれないよね。泣いたり笑ったりも当然。ささやかで滅びかけそうな心を震わせてくれる、こまやかな優しさも愛もあるでしょう。

一軒一軒、灯りの下の風景は違っても、それを俯瞰で見たら「綺麗だな……」と思うのは人の本能であるかもしれません。

劇場で観た香港映画、アンドリュー・ラウ監督の「傷城」で、何気ないカットではありますが「監督は何故に私のツボ所を知っているのん？」と思った箇所があります。

ただっ広いフローリングの部屋には電気が点いていません。暗い部屋の壁際にあるパイプベッドに、ぽつんと腰掛けて俯いている俳優がいます。

ちょうど頭の方の壁面にあたる部分が、全面、おそらくベランダの設定なんです。大きな窓ガラスとサッシを隔てた向こうには、一面に広がる香港の夜景。本当に、ごく一瞬のカットです。そこに広がる沢山の街の灯と、俳優の演じる孤独な役柄がピタリと当てはまっていました。

痺れました。

（ああ、そうそう！ これなのよコレ……！）
なんてね。

まあ、恋に限らず。（アレ？）こういう感受性を、持ち寄って温めあえる人を、男女問わず自分の周りに置いておきたいですね。

才能なんて言葉、だいきらいっ。

タイトル通りの心境です（泣笑）。

なので、少し前の自分のブログから記事を引っ張り出してきて、自分なりに編集して載せてみることにします。

ちょうど「文章の作り方」を、あれこれと考えることが増えてきたので、いいキツカケになるやもしれない、というささやかな抵抗にも似た気持ち（笑）。

時々、「正統派文学！ と感じる文章が読みたい」そう思う時があります。

先日、ネットであちこち見ていたところ。世の中には、私の想像を遥かに上回る志水辰夫・通称シミタツのファンの皆さんが居てくださってて。

どっさり

ネットの中にシミタツ・センテンスを載せていてくれるではないですか！

ラッキーあたし。

ちなみに私個人的には、なぜか少し前に“恋愛小説”として急に売れた「行きずりの街」は初版で読みましたが、全然面白くないです。志水辰夫らしさがほとんどない。無理矢理に、今っぽくなんかしなくてもいいのに！ とプンスカしたのを憶えています。

ただ、やはりそこには商業作家の宿命があると思います。
商業作家であれば

「自分の好きなカテゴリーのものしか書きたくない！ 今、どんなものがウケているのか知らないし興味ない、嫌いだから分析も不要」これでは、突出した人気は出ない。それはすなわち、「身内以外には」「他人に名前を覚えてもらえない」。結果、誰にも名前を知られずに埋もれて行く、という図式。ただ、「身内」が次々とファンを作ってくれる、ということはあるでしょう。しかしながらそれは決して、一気に千人・万人単位ではないですね。

“ 多くの人にウケよう ” “ 多くの人の好みに合わせて作品を書こう ” と思うと、志水独特の癖のある言い回しが減らざるを得ない。「行きずりの街」よりも前の「情事」でもそうでした。改訂しない方が良かったのに。改訂して、ますます「うーむ」と唸ったワタクシでございました。その辺りから、なんとなく志水辰夫の本を読むのが辛くなって行きました。

頑固親父世代の方なら、頑固にそのまま、私のようなコアなファンと共にいて頂きたかった。こう思うのは勝手なファン心理なのかもしれません。

けど、昔からの志水ファンなら「あんたのすることには、とことん付いて行くぜ！ 心配すんな！」なんて思うのかもしれないですね。

私は最近、また志水辰夫の本が色々と読みたくなってきました。鮭の産卵みたいな感じ？

志水辰夫自身は、公務員や新聞記者の職を経て、四十歳半ばの時に「飢えて狼」が文壇の表舞台に出た作家です。

遅咲きの部類であるかもしれませんがね。（思うんですけど、今の

時代だったら五十歳を過ぎてからの表舞台デビューでも、決して遅くはないんじゃないかと)

プロの作家になりたいと願った頑固なオッサン(オッサンとは失礼な言い方ですが、愛情表現でもあると受け止めてくださったら幸いです)が、渾身の力を込めた「裂けて海峡」が、冒険小説の世界で受け入れられ、そこから徐々に、志水独特の表現が確立されていきます。それに酔いしれたファンは、私一人だけではないでしょう。

いわゆる「志水節」。以下、この段落は、ほとんどネット(<http://www.kyotosanga.org/blog/>)から拾ったコピペになりますが、このブログ主の方は、本当によくまとめていらつしました……。

志水節の3大特徴 「背いて故郷より」

- 1) 語尾を少しずつ変えたり、短い体言止めの文章を混ぜたりしながら、緩急の取れたリズムカルな文章を整えていく。
- 2) 客観的な描写のあとに、主観的な描写を唐突に効果的に混ぜ、文章にたるみをつくらない。
- 3) 盛り上がるシーンでは、リズムカルに体言止めを繰り返す<詩的な文章>に変わる。

1) の例文

山裾へ段丘上に築かれた墓地が早くから見えていた。成瀬家の墓地が最上段に位置している。墓地全体が切り石の垣で囲ってあった。

墓石は十ばかり。中にまだ新しい白木の墓標がひとつあって、それが成瀬恵司の墓だった。

2) の例文

1、
窓辺へ立ってガラス戸を開けた。辛うじての雪である。降るとも見せずにわずかに舞っている。掌に受けると触覚も残さず消えていった。風が殆ど動いていなかった。

空に見えない星を感じた。

2、

「また（電話が）かかってくるかもしれません。しばらくわたしのことは伏せておいていただきたいんです。たとえ誰からの問い合わせであれ、知らない、来ていないと」なるべくさりげなく言ったつもりだが少し力みが出た。寿美子がちらと瞼を上げてわたしを見た。彼女は首を振ってうなずいただけだった。
「気をつけて行ってらっしゃい」

彼女が好きだ。

3) の例文

言葉を返せなかった。笑みすら返してやれない。ひきつらせた顔

でただ頭を下げるのみ。うつむき、会釈、身震いをして。背を曲げ、わたしは逃げ出す。行く当てもないひとり影。冬の巡礼、道、その果ての旅。

夜道の向うに明かりがあった。門があつて竹垣があり、笹と椿の生垣いけがきがあつた。庭から松が枝を外へ延ばし、門柱に取り付けて雪洞ほんほり型の門灯。雪に埋もれた小さな門松。

路上にひとり女性が立ちすくんでいた。差し伸べてきて、白い二本の手。

通り抜けた。声もなく、目もなく。

わたしを許すな。その罪を今生償わせてなお許すな。無限の苦しみを課さんがため、永劫わたしを生かしめよ。生きて地獄、果ててなお地獄。貶め、裁き、死してさらにその死体を苔打て。

夜行列車の音が聞こえた。街の光りがほの白く空へ照射している。漂って鐘の音。凍てついて冬の道。冷たい、どこまでも冷たい雪の肌。夜の残影。

音がする。わたしの傍らを歩いている足音がする。

早季子が黙って歩いてくる。

……以上、引用終わり。

私の超個人的な好みで言わせて頂ければ、真冬の札幌、小樽を舞

台に描いた「尋ねて雪か」が痺れるほどに愛おしい一冊です。

しんしんと降り積もる水気を含んだ雪の、かすかな音まで聴こえてきそうな文章に憧れます。雪が降ってくる、どんよりした空を見上げると、視界の隅々まで、重たい灰色の世界に閉じ込められる錯覚に襲われたことを鮮やかに思い出します。

「尋ねて雪か」この作品を貰く一言は「おにいちゃん、いつしよにおうちへかえろうよ」！ コレ一択！ べらぼうに涙ダダ漏れします。

当時の会社の後輩に進めたところ、やはり泣いたと言っていました（笑）。

重苦しく心に迫る雪景色と共に、主人公がどうしても捨てられない「かじかんだままの、小さな優しい思い出」「憎んでも憎んでも癒されない記憶」の心象風景の描写が、主人公の動作の隙間にバスバスッと入って来るんです。この入れ方が憎い。

昭和臭いと言いたきや言いなさい（笑）、人の心が美しいと感じ取るものなんて普遍的なもんです。

以下「尋ねて雪か」より七箇所を抜粋。

いつだって故郷を捨てる者は後ろめたい勝利感がある。

雪がまた舞いはじめている。

雪しか見えない。

いつもそつだ。

重く、果てしなく、すべてを吞みつくして雪があった。白と黒、野と山、人と家、単純化された心象の世界。それで表現できない風景があった。それを語りおおせない心があった。

人、それぞれの孤独、それぞれの記憶、ばらばらの生と死。思い出の冬。

雪しか見えなかった。

雪しかなかった。

雪の声しか聞いたことがなかった。

雪が舞う。

いつだって人の心の、荒野に雪が降る。吹き荒れて風だ。ひれ伏して憎悪。さむざむと記憶、過去、なにも生み出さない心象風景。

雪が降る。

黒ずんだ雲を妖しく垂れ下がらせ、空を切り刻んで雪片が頭上に振りかかってくる。雪の言葉はいつだってかぼそいつぶやき。

色を屠^{ほふ}り、音を沈ませ、人の温もりを掠^{かす}め取って雪が降る。広がるのは冬の荒野、人の孤独、海鳴りの轟く闇の呪い。

聞こえてくる。遠く去りゆく木枯らしのような、かぼそい、きれぎれの、泣くような少女の声が聞こえてくる。

「おにいちゃんおうちへかえろっよ」

「みんなでいっしょにくらそうよ」

雲が流れる。影が落ちる。

闇がどこまでも広がってくる。

雪の底にひとり道に迷っていた。

寒さにふるえ、孤独に怒り、こみ上げてくる力にむなしくなりながら、おまえはいつでもおまえでしかなかった。なにを恐れ、なにを力んでいるのか。恥辱にまみれぬ人生など、未だなかった例しはなかった。

闇をふさぎ、雪を蹴散らし、遠くおどろおどろこだましてくるものがある。

いつかの海鳴りか、それとも荒野を彷徨う物の怪か。

聞こえて言葉。祈っても言葉だ。いつだって残された者の声が追ってくる。

「おにいちゃんおうちへかえろうよ」

「みんなでいつしよにくらそうよ」

帰るところがなかった。

行くところがなかった。

どこにもわが身を置くところがなかった。

未だかつて明けない夜はなかった。

未だかつて人の帰らない家はなかった。

テンプレ展開なラブシーン・いつも二行で終わっちゃう志水辰夫にしては、以下のラブシーンは、珍しいパターンかもしれない。…何という清冽なラブシーンなのかと思った一節。

「青に候」より

「たえ殿」

「たえと言ってください」

「たえ殿。それはいけない。聞いてください。わたしは侍になれなかった人間なんです。かといって百姓にもなれなかった。一人前の顔をして、えらそうなことをしゃべったり振る舞ったりしてきましたが、自分では一文の金すら稼いだことがない人間なのです。ひたいに汗して働いたことがない。手や腕がかさかさになったり、あかぎれだらけになったりするほど働いたことは一度としてない人間なんです。今日限り侍をやめました。（略）これまでの自分を捨てて、生まれ変わってしまいたいんです。生まれ変わって、それからあなたの前に出てきたいんです」

たえがかぶりを振った。その笑みがはつきり見えた。

佐平はわななきながらそこへうずくまった。たえの手がほほを包み込んできた。

佐平はその夜から生まれ変わるための努力をはじめた。

いいつすねえ、いい！ 一所懸命に勇気を振り絞って自分の汚点を話し、赦しを請う若い男。そしてそれを包む女性の姿。うっん。そして！

やっぱり志水辰夫と言えばコレですよコレ！「裂けて海峡」より。
ラストシーン。ちなみに講談社版。

そばに行くのが少し遅れる。

まだ、し残していることがある。

すませてからそこへ行く。

おまえのために祈っている。

天に星。

地に憎悪。

南溟。八月。わたしの死。

志水節は、一歩間違えると、非常にあざとく古臭い。だが、ちょっと待てと。普通に生活していて、悔しいと思うこと、嬉しいと思うことってヒトとしても、ごくごく当たり前の「泥臭い」感情なんじゃないだろうか。

そのこの辺り、迷わずにズバツと踏み込んでくれる心地よさが好き。

新しいこと

つい先日、アルファポリスに登録してみました。
今のところ、タグを付けているのは三つあります。

「放課後、彼女にキスしよう」（ノクターンノベルズに連載している方）と

「彼女のおっぱいは僕のもの！」（同上）

この二つと、先日から、やはりノクターンにアップさせていただいている

「伊織とキスから最後まで」

以上、三つです。

「伊織センパイ」の話を書きたいと思うようになったのは、新しいことに挑戦してみたくなったから。

普段どちらかというと「悩む10代」や「気持ちに傷を負った人」にスポットを当てていたのですが、たまには違う毛色のキャラを育ててみたくなりました。

御陰様で「伊織センパイ」の話は、沢山の方々が、アルファのタグを押してくださっています。

素直に、とても嬉しいことだと思います。

沢山の作家さんに、ご指導いただいて、励ましていただいている作品でもあります。それを考えると、フクザツな気分にもなりますが（汗）。

今日の夜中、二件目の感想がついていました。

「アホすぎる。警察呼べばいいのに」

と書いてくださった方がいらっしやっただんですね。

実は、その文章を拝見したときに、私は（わあ）と思いました。

感想の返信にも書かせていただきましたが、バカみたいに一途ではっちゃけてて、でも、どこか変で対処のしようがない、手の付けようがない、そんなキャラクターを表現したくても出来なかったから。

（実は次回と次々回の更新分は、自分でも書いてて「リアルでこんなのがいたら、確実に通報対象だわねえ」とは思いましたノ笑）

その感想を寄せてくださった方は、決して誉める意味ではなかったと思います。でも、だからこそ、私は「こうすればいいのか!」と心底思いました。

だからすごく嬉しくなりました。

伊織センパイの話は、後半18禁らしくしたいです。需要があるかどうかは分かりません（自爆）。

けど、ハッピーエンドにはしたいです。

なぜ18禁描写にこだわるのか なんちゃって（笑）

ちよっぴりオトナの話（笑）。

あくまでも私の個人的な考えです。

私は業が深いのか、一個のことを描いてみようとすると、とことん行きたいのです。

そういう意味では、制限なしの18禁力カテゴリは非常に書きやすい。

別に、18禁力カテゴリって、性的な表現の多い作品に特化しなくても構わない訳ですよ？

度の越えた暴力表現でも18禁です。

人間の持つ醜さや崇高さに踏み込んで、なんとか書ききろうと思ったら、どうしても、性描写も暴力描写も含め、18禁描写も書かざるを得ないのではないかと私は感じています。

だから私は、そこに居ます。

逆に、そういう描写を軽蔑している「なろう」作家は少なくないと分かれると、惨憺たる気持ちになったりします。

「なろう」作家だけではありません。“小説家になりたい”と名乗る人の中には、その類いの方々が、大勢いることを思い知りました。

「そんなに18禁描写含む作品を手掛けているオンラインノベル作家は、地位が低いのだろうか？」

首を傾げざるを得ません。非常に気分が悪いです。

中には

「私は「なろう」で小説を書いているけど、息子も見るパソコンで「ノクターン」のランキング作品は暴力的なタグばかりで非常に教育に悪い。犯罪に繋がったらどうしてくれる、と苦々しく思っていた。優美香さんは、その中で女性として頑張っている。「ノクターン」で流行る作品のカラーを変えて欲しい」と、メッセージで送ってこられる方もいらっしゃる。

（でも、その方の息子さんは男前で女が切れたことがない、と前に自慢されたこともあったんですけれどもね……。 「ノクタを見るな」と叱るよりは、避妊の仕方を教えた方が宜しいかと思ったんですけれどもね）

性描写のある文字だけの作品が、性犯罪を生むなんて。どっかの政党の女性党首や、宗教団体の外郭団体みたいな政党の議員じゃあるまいし。

あくまでも架空の世界と、親が教えたらいいことではないでしょうか。

ある程度のファンがいる「なろう作家」でさえ、それ以上は私の思いを聞こうとはしないのです。

同じように文字の世界で頑張って行けると思っていた人たちから、内心は蔑まれているのかな、と思うと以前は非常に辛かったです。

はい、私でも。

けど、最近は吹っ切れました。

その「18禁表現をバカにする・敬遠する」人たちを、凌駕するような心情描写を書けばいい。そして「18禁行為」は、作品のキャラクターの個性を際立たせるツールに過ぎなくなる。

だから頑張れるのかもしれない。

需要があるのかユニアクー桁w このエッセイ（笑）

時々ゼロの日もあつたりしちゃうぜ たまには堅苦しくなく書きたいから、ネットから引つ張つて参りました、<http://petitemort.rdy.jp/69Q/>

□ エロかきさんへ69の質問 □

エロ、という呼称は余り好きじゃないんだけど、まあいいか！ 行つてみよう！。

1・あなたのお名前を教えてください。（ペンネームorハンドル）

優美香。最近、別の名前も作りました。

2・18禁小説を書き始めたきっかけは？

今年の三月、簿記試験が終わってから「アラビア数字」じゃなくって「文字」が書きたくなった。
しかも、今までの自分だったら想像もつかない世界を書いてみたかった。

3・書き始めてどれくらいですか？

まだ一年経ってない。九ヶ月くらい。

4・ターゲットとしている性別、年齢層などありますか？

理想を言えば年齢層は問わない。性別は男性タゲ。

5・あなたの小説の売りは簡単に言うと？

「情と執念の18禁描写は任せなさい」とホントは言いたいです。

6・得意とするジャンルは？

現代（笑）

7・萌えるシチュエーションは？

他の人の作品を拝見していて「くおおお」と思うのは、手指や眼の

描写があつたりすると確実に来る。

8・何属性ですか？いくつでも。

メガネ。ネクタイ。とかで、いいの？

9・好きだけど書けないというジャンル、シチュエーションはありますか？

アクション。サスペンス。異世界ファンタジー。

10・お薦めの作品を一つ、内容紹介も添えてどうぞ。

「放課後、彼女にキスしよう」

陸上部員の近藤は、ある日の部活終了後、同じクラスの女の子から声を掛けられる。

その週の日曜日、近藤は彼女と一緒に出かけるのだが……。

……恋することに理由はいらない。まっすぐ、ひたすら純粹に、ひたむきに。

11・これは薦められないという作品はありますか？

ない。

12 ・主人公は男性、女性、どちらが多いですか？

タゲ的に男性。 だと思う。

13 ・執筆中は男性、女性、どちらに感情移入しますか？

男性。

14 ・ストーリーとキャラ、先に浮かぶのは？

ストーリー。

15 ・男性キャラ、女性キャラ、描写に力が入るのはどちらかとい
えば？

男性。

16 ・キャラの設定は細かく決める方ですか？

決める。年表も場合によっては作る。

17・身近な人物をモデルにすることはありますか？

ない。

18・キャラを作る上で既存のメディアに影響されることはありますか？

ないと思う。

19・キャラの身体的特徴を作中でしっかりと描写する方ですか？

できればしたい。現状、努力はしています。

20・お気に入りのキャラはいますか？

みんな可愛いし、大事。

21・自分のキャラにリアリティーはあると思いますか？

あると思うんだけど……。

22・抱きたい！（抱かれない！）と思うキャラはいますか？

男性キャラには全部そう思えるように書いている。

23・逆にこいつとだけはゴメンだと思っキャラはいますか？

いない。

24・つい書いてしまうというキャラのタイプがあれば教えてください。

ムダに苦労している女（笑）

25・自分のキャラに萌えますか？

萌えなきゃ描かないよ。

26・男女キャラの受け、責め。多く書いているパターンは？

男S女M。とーっても書きやすい（笑）。

27・設定集、キャラ紹介などを置くことについて思うところがあれば。

今までは置いていないけれど、「放課後・ノクタ版」には、そろそろ必要かもしれない……。 （長くなってきたので）

28・一人称と三人称、どちらで書くことが多いですか？

三人称かなあ……。

29・文章を書く上で特に気を付けている点は？

女臭くしない。

30・ストーリーを考える上で特に気を付けている点は？

齟齬を出さない。設定をきちんと立てる。

31・起承転結。順序を追って書く方ですか？

うん。

32・短編と長編、どちらが書きやすいですか？

どっちも難しい。

33・18禁描写とストーリー部分、どちらかといえば重点を置いているのはどっち？

ストーリーかもしれない。

34・18禁小説はエロが濃厚であればストーリー性は薄くて良いと思いますか？

薄いストーリーで濃厚な18禁描写はありえない。

35・18禁描写のリアリティーは重要ですか？

うん。

36・射精まできっちり描写する方ですか？

うん（汗）。

37・擬音は駆使する方ですか？

したい。擬音に頼ることは宜しくないかもしれないけど、作品によつてはアリだと思う。

38・あなたが書く上で読者が「抜ける」ことは重要ですか？

ん！

39・一作におけるエロ無し部分とエロ有り部分の比率はどれくらいですか？

「放課後」は別格。それを除くと半々だと思う。

40・過去に書いた作品を読み直して校正しますか？

時々します。

41・誤字脱字を指摘されたらどう思いますか？

有難い！！

42・挿絵を付けるとしたらどんなタイプのものが合うと思いますか？

惣領冬美さんがいいな。

43・18禁小説作家としてプロデビューしたいですか？

んー、18禁だけに絞ってしまうのは何とも言えない。

44・ドラマ、映画、漫画、ゲームなどで原作として使われたい作品がありますか？

最初から「放課後」は映画狙いで（己の器を知らんw）書いていた。
エロゲならマルチエンディングが可能！！（笑）

45・自身の体験を作中で使うことはありますか？

ないない。

46・逆に作中で表現したくて体験したことはありますか？

ない（笑）。

47・セリフ、シチュなど、エッチしている時に「これは使える」と考えてしまいますか？

そんな相手おれへん（笑）誰か下さいwww

48・パートナーに18禁小説を書いていることを言えますか？（
現在いない方は将来出来たら）

わからない！。

49・市販の18禁小説を読みますか？ また、小説を書く上で参考になりますか？

買ってまで読まないな……。。

50・エロゲーをしますか？ また、小説を書く上で参考になりますか？

したことないw

51・AVとエロアニメ、参考にするならどちら？

アニメの方かなー。

52・淫語について思うところがあれば。

記号。

53・愛のないエッチを書きますか？

ストーリー上、必要なら書きますよ。

54 ・ハッピーエンドとバッドエンド。どちらかといえばどっち派？

ハッピーエンド。

55 ・18禁小説を書き始めて変わったことはありますか？

ない。

56 ・18禁小説を書くことに、全年齢対象の小説を書くことでは得られない物があると思いますか？

心理描写を深く掘り下げられること。

57 ・今まで貰った最も嬉しい感想を教えてください。

ひとつを除いて全部嬉しいです。

58 ・逆にこれは凹んだという感想があれば教えてください。

凹んだというよりも腹が立ったのは、SNS経由で来た創価学会員で「誉められないと拗ねる作者がいますが、あなたはどっちですか」と書いてあった。

その人のプロフを見たら、好きな本の欄に「人間革命」と書いてあって「ああ、こんな本がこの人のデフォであれば合わないわ」と思った（笑）。

59・自サイトへの来客数は気になりますか？

気になりますー。

60・来客数〃作品の質 だと思いますか？

当たらずしも遠からず。

61・他人のオンライン小説を読みますか？

めっちゃ読む（笑）。

62・他人の小説を読む時、気にしてしまうところはありますか？

日本語の使い方。語尾。キャラの口癖や習慣の付け方など。

63・目標にしている作家はいますか？（プロ・アマ問わず）

書ききれない。

64・全年齢対象の小説も書きますか？あるいはいずれ書きたいと思いますか？

書きたい！

65・18禁小説を書いていてやってしまった失敗などありますか？

ない。

66・18禁小説を書いているもっとも大きな理由は？

面白いから。

67・自分が書く小説に自信がありますか？

そこそこ（笑）。

68・あなたの小説はズバリ、オカズになると思いますか？

小説をオカズにできる人って、ハイレベルな趣味だと思うw

69・ここまで読んでくれた読者の方に、メッセージをどうぞ！

中元歳暮はサバの水煮缶で なんちゃって。

ともあれ、今後とも宜しくお願い致します！！！！

終わってません。細々と続けます。

すみません書かせて下さい。お願いします。

……上の一行だけ書いて送信したんだけど、二百文字未満だからエラーが出ちゃったよ。がっくり。

えーと、そんな訳で急遽（？）、先日やってみた暴挙についてお話しします。

暴挙、と言っても大したことはないのかもですが。別ネームを作って、女性向けの方に投稿してみました。

書いたら何となく（これは、いつものところには向かないな）と思ひ、けど、ほんの少し全年齢対象には向かない表現があったために、ネームを変えて出してみた訳です。

特に意識して文章を作った訳でもなく、「書き捨て」気分でした。ですが、そんな作品でも大事にしてくださる方はいらっしゃる。

非常に申し訳ないな、と思いました。

ですから、（私本人の技量は稚拙ではありますが、出来る限り努力してみて）改めて書き直して、投稿するつもりです。

その作品は、シンプルに「生きていること」を核にしています。

愛読者は、なによりもありがたい。

十月十日に書いた文章の書き直し。

今年の三月から、私は小説を書き始めた。今までに、まともな小説なんか書いたことはない。作詞や定型詩の方が自分には向いていると思っていた。事実、いわゆる一発屋だけど、有名な楽曲に詞を提供した人からは

「きみは作詞の方が向いているよね。小説は、からつきしダメだ」と言われたこともある。

どうせ書くなら、今までの自分では及び腰だったカテゴリの作品に挑戦したかった。

はじめのうちは、自分のブログにコツコツ書きためていた小説を「小説掲載サイト」に載せてみたいなんて全然思っていなかった。

「他人様に見せるほどの体力は、まったくくない」
そんな気持ちで一杯だったから。

でもでも（笑）人間の性根というのは浅ましい。

書きためていたものが、百個できた。その時、思った。

「もしかしたら、今なら、ちよつとは見てくれる人もいるんじゃないんだろうか」

そう思った私は、自作を掲載できるサイトを一生懸命に探し始める。

掲載されている作品が数多くあり、しかもそれらのカラーが幅広いことを頭に置いて、当時は探していたと思う。

なによりも成人向け小説が載せられるところ。

初めて「ノクターン」を見つけ、作品を載せた時の緊張は忘れない。

初作を掲載して、次いで二作目を掲載してみた時に、しみじみ感じたことは

「このサイトの読者さんは、優しいなあ……」
だった。

今になって読み返すと、初作も二作目も恥ずかしい限りだけでも、ツイッターに登録してから色々な方に言葉をかけて頂けるようになっていた。

私の作品を読んでくださる方々の、ほとんどは、未熟で荒削りな頃から

「こいつ、おもしろいやか」

そう思いながら、応援してくださっていたのではないだろうか。

ノクターンwiki企画に参加してみたいな、参加して「放課後のスピノフ」を書きたいな……、と思ったのはいいけど、自分にとっては雲の上にいるような企画参加メンバーを知って眩暈がした時も、ヒネクレながらツイッターでボソボソ呟いた折りに

「元気出して！ 蹴散らしちゃいましょうー」

そうリプライしてくださった方がいる。

「なるう」には、登録していらっしゃらなかった方だったはず。

だけど、その方は仕事帰りに拙作を読むのを楽しみにしてくださっている。普通の「いいお父さん」である。

顔は見えないし総合ポイントにはつながらないかもしれないけど、

そういう方が、私には沢山いてくれるのが、ものすごく幸せだと感じる。

日中は仕事を頑張り、奥さんや子供さんを守ってるサラリーマンの皆さんが、元気になってくれたり、気持ちがほっこり温かくなるような文章を書きたい。

その為に、自分は時間を使いたい。

「放課後、彼女にキスしよう！あなたを誰より愛してる！」について。

ノクターンノベルズで、今年の四月二日から掲載させて頂いている作品です。

連載の最初の頃は、ページをクリックしてくださる方がいらつしやるのは知っていたのですが、欲深な私には、なかなか手応えが掴めませんでした。

「こんな18禁・男性向け表現が、まるで無い小説を楽しみにしてくれる人が、本当に、いるんだろうか」

「みんな「今日もエロい描写はないのか」とガツクリしながら、ブラウザ即バックなんじゃないだろうか。それでも全然おかしくないもの……」

そう思って、テキスト画面に向かいながら、（鬼の目にも）涙が止まらなくなった日は頻繁にありました。

それでも昔の人は、上手い言葉を遺してくださっているもので「継続していれば、なんとか」力は付いて来たのだらうと、ようやく思えるようになった作品です。

「本日の「一度でいいんですっ」」のところでも書かせて頂きましたが、私が初めて書いた小説はノクターンに投稿しています。

その初作と次の作品を書いているうちに、何故か、学生服の背の高い男の子の背中が、しょっちゅうパソコンの横で、チラつくようになったのが「放課後」の始まりです。

その男の子に「近藤」と名前を付けてあげた時から、苦難の道が始まった訳ですが（笑）。

涙をぼろぼろこぼしながら書いてきても、お陰様で、書き手の方や、脚本家の方からも「おもしろいですよ」と、お声かけして頂けるようになった作品が「放課後、彼女にキスしよう」です。

私が近藤の話を書いていたのは、（大袈裟でも誇張でもなく）もしかしたら必然だったのかもしれませんが。

「小説家になろう」にも投稿してみようと思ったのは、やっぱり、一人でも多くの人の目に触れるような小説に育てたいと考えたからでした。

「なろう・放課後」の方が、まとめ方は丁寧かもしれませんが。そして、「なろう・放課後」を「お気に入り登録」してくださっている方が、ありがたくて仕方がありません。

この作品だけは、他プロバイダに作っている“自分の小説保管庫ブログ”に載せることが、出来ないでいます。

「しない」のでなくて「出来ない」。しよと思うと、心理的にもすごい抵抗を感じます。

とりあえず、近藤の部wが終わったら考えてみてもいいかなー、なんて思っています。

（私のことですから、また気が変わってしまうかもしれませんが…）

とある読み物検索エンジンアンケート

どうも皆様こんばんは。新連載で脳みそが、ぱつつんぱつつん張っている優美香でございます。

本日は、タイトルの通りの話題。こんなアンケートが載っていました。

途中で読む気を無くす条件。

うーん、これは「妖怪・お気に入りはずし」が来る条件ですね…、と思いつつ、画面をスクロールして行きました。

【設問・「こんな小説またはテキストサイトは途中で読むのを止める」という条件について教えてください。コメント欄に簡単な理由もお願いします。

途中で読む気を無くす条件のアンケートですので、デザインや色調など第一印象に関する項目は除きます】

- | | | |
|----|---------------------------------|------|
| 1位 | 完結しないのに新連載が増えていく | 545人 |
| 2位 | 文章レベルが低い（説明不足、表現力が乏しい、文法ミス等） | 541人 |
| 3位 | 公開先がブログに移った | 453人 |
| 4位 | 読み逃げ禁止発言、感想や投票の強制・脅迫まがいの言動が見られる | 435人 |
| 5位 | そのサイトを生理的に好きになれなくなった | 427人 |
| 6位 | 表紙絵や挿絵などイメージ画像を見て | 392人 |
| 7位 | サイトの移転先がわからずそのまま読むのをやめた | |

311人		
8位	顔文字や（笑）といった表現が出てくる	265人
9位	閉鎖と復活を繰り返すサイト（ 休止は含みません）	
261人		
10位	毎回本文ページの最後に作者がコメント	238人
11位	ギャル語を使っている	223人
12位	宣伝と実際の内容が異なっていた	197人
13位	（官能小説以外で）性的描写がすぎる	195人
人		
14位	「諾威」など難読漢字の多用・とにかく漢字で記述	
190人		
15位	句読点に「、」や「。」を使っている	180人
16位	公開方法がメールマガジンに移った	159人
17位	事前告知なしで途中から有料	157人
18位	話の展開や作風が自分の趣味に合わなかった	15人
1人		
19位	単に飽きた	140人
20位	ヤマモオチもなく仲間内にしか判らない内輪ウケ狙いの話	135人
登場人物が凝りすぎて普通には読めない名前ばかり	上に同じ人数	
22位	名前や設定が違っただけで毎回同じような話	111人
人		
23位	詩のように細かく改行が入る	109人
24位	感想のレスや紹介文で卑下しすぎ	101人
25位	本編と番外編・おまけのギャップが酷すぎる	99人
人		
26位	誤字脱字があまりにも多い	98人
27位	本文とは別に注釈項目を読まないと話がわからない	
95人		

28位	注意書きなしで同性愛描写が含まれている	92人
29位	矛盾だらけでまとまりがなくなっていく	91人
	登場人物がその性別や年齢、身分ではありえない言動をする 上に同じ人数	
31位	それまでの流れをぶち壊す場面が何度も入る	90人
32位	本編更新以外の過剰なファンサービスについていけなくなつた	89人
33位	セリフだけで話が進む	88人
34位	ご都合主義な展開が続く	83人
35位	登場人物の言動が薄っぺらい	81人
36位	何時になつたら続きが出るかわからない	79人
37位	無意味に登場人物を死なせる	77人
38位	話がダラダラ続いて飽きた・諦めた	76人
39位	主人公がモテてちやほやされるだけの話	72人
40位	作者自身が楽しんで書いていない作品	70人
41位	小説の文章記述に関する基本ができていない	67人
	他人の作品のパクリだと気付いた	64人
42位	携帯サイトに移行してしまった（PCからは読めなくなつた）	62人
44位	連載ものであまりにも中途半端なところで続く	58人
45位	作者が自作品の登場人物に萌え過ぎてしまっている	55人
47位	登場人物がやたら美形・完璧人間だらけ 上に同じ人数	54人
48位	複数ページにまたがるのに各ページへ直接飛べない	52人
48位	登場人物の性格描写と言動が一致しない・矛盾が目立つ	52人

ありがちな設定・展開で先が読めてしまう 上に同ry

50位 その他(コメント欄に具体的な内容がない) 46

人

51位 別ジャンルの運営・更新がメインになっている 4

0人

52位 死んだ人間が簡単に生き返る 15人

(恋愛小説以外で)途中から恋愛小説にテーマが変化 上に

同ry

誤字脱字や専門知識の誤用などを指摘されても修正されない

これもry

55位 作中にオタクや腐女子(同人女)が出てくる 10

人

56位 ひらがな部分や全文をカタカナで表記 6人

オンラインノベルといっても、案外に「絵文字、(笑)はNG」
の方は多いんですね。

それはそうでしょう、小説の形態を取っている意味がない。私も、
このエッセイだけは とか使っていますが、小説で使う勇氣はありません。
ギャル語は問題外です。

あと、自分がドキッとしたのは「完結していない作品があるのに
連載が増える」でした。

登場人物が(身分に)ありえない言動・行動をする、というのは、
おそらく書き手は設定が中途半端のままで書き進めちゃったのでし
ょうか。又、矛盾だらけで云々、というのは、作品によつては時系
列を揃えるために、年表まで作っている私にはオドロキです。

(万が一、自分の書いたものであれば、気が付いた時に直すように
はしています)

「文章のレベルが低い」これはキツイ。確かに仰ることは分かります。私自身、少しずつでも上達するようにとと思うと、やはり下手な人のは読みたくならない。それよりも師匠が欲しいなと思います。やはり基本って、大事ですから。

- ・登場人物の言動が薄っぺらい
- ・モテてちやほやされるだけ

ウツ！

どなたか、この中にお医者様はいらっしゃいませんか！ と言いたくなる、私自身への戒めのようにも感じられました。なるべく薄っぺらくならないように気を付けております。ご容赦ください。ね？だめ？（汗笑）でも、「次回は何日に公開します」って予告する位だったら、いいよね？ と何故か焦っています。

なんでもそうだけど、「人の振り見て我が振り直せ」っていうことだなあーと、しみじみ思い入った次第です。

このところ

今までならば手掛けてなかったような類いの作品を書いています。大好きな「放課後、彼女にキスしよう／ノクタバージョン」まで、なかなか手が回らないのが悩みではあります。この場を借りて、「走る変態陸上部員・近藤直樹」のファンの皆様にお詫び申し上げます。

すみません。もう少し、お待ちください。

今日は「北朝鮮・総書記である金正日氏が亡くなった」というニュースを、どのテレビ局もトップで扱っています。

それをつらつらと観ていると、「ううむ」と思うことが、ひとつ。

一昨年の夏、縁あって参議院選挙のお手伝いをしたんです。期間は短かったけれども、毎日がエキサイティングでたまりませんでした。

そのときに知り合った人の地方選挙も、今年の四月、ほんのちよつとですが（宛名書きくらい／笑）呼ばれたので、させていただきました。

素直に思いました。国政選挙、めちゃくちゃ面白いです。

まさに「事実小説よりも奇なり！」であります。

確かに毎日、楽しいことばかりではありませんでした。理不尽なことで怒鳴られたりしたことも、何度もあります。そのたびに「チクショー！」と壁パンしたりしたものです。

「んなこたあ聞いてねえよ！ バーカ！」

みたいな（笑）。

それでも不器用なりに一生懸命やっていたれば、自分の味方は「こういう場所でも」現れてくるんだな」と。

ちなみに。当時、前職大臣の政策秘書だった方から聞いた話は、私の初作のロケーションに繋がっています。

次に選挙の手伝いをすることがあったら、選挙期間中で書いてみたい話があります。

受ける・受けないは別として、身バレしないで書ける自信はありますから（笑）。

その時は、楽しみにしててくださいね。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、たんのう堪能してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n4659x/>

放課後は彼氏と寄り道しよう

2011年12月19日21時55分発行